



ヨゼフ・アベイヤ司教認可
発行所 福岡司教本部
福岡市中央区浄水通6-28
発行人
カトリック福岡司教区
編集人 浦川 務
TEL 092-522-4059
FAX 092-523-2152
振替口座 01760-6-20729
カトリック福岡司教区
定価 1部70円

7月の意向

【教皇の意向】 識別する力を養う
【日本の教会】 人間の尊厳

教区創立100周年2年目の歩みのスタート

「未来に開かれた教会となる」

福岡教区長 ヨゼフ・アベイヤ司教



教区100周年ロゴマーク

教会となる「ために、何ができたか、何ができなかったか、交わりが深まったか、かどうかなどを振り返る必要がある。具体的に交わりが深まったことを示すしるしを皆で確認し合って感謝することが大切です。」

また何もできなかったとすれば、その原因を明確にする必要があります。そうしないと、すべては紙に書いた文書に終わってしまいます。各小教区の主任司教や信徒会長に、このような振り返りを行うようお願いいたします。将来の力になります。

2年目を迎えて
神の祝福を祈る
そして、今年7月16日から2年目を迎えます。テーマは、「未来に開かれた教会となる」です。特に、青少年の司牧と外国から来られた信徒とのつ

2年目に入る前に、各教会委員会などで終わろうとしている1年目の歩みを振り返る必要があります。

新しい道を探るのは大切です。隣り合う小教区や地区レベルで何らかの活動を考えることができます。そのための努力は教会と青少年に対する愛のしるしです。

そして、外国から来られている信徒とのつながりを深めていきたいのです。この方々の存在は日本の教会にとって大きなめぐみです。外国の信徒も日本の教会から学ぶことがあります。互いに関わっていく中で自分の視野が広がり、教会が活性化されます。

共に、希望を持って旅を続けましょう

2027年が近づいてきています。ペースを上げて、歩み続けたいと思います。これからいろいろなことが求められます。積極的に取り組んでいきましょう。

福音は確かな光です、現代社会が必要としている光です。福音に触れるめぐみを与えられた私たちは、この状況を見て何もせずにはいられないはず。使徒たちを派遣したイエスの望みです。取り組んでいく中で喜びが与えられます。

ヨゼフ・アベイヤ

福岡教区創立100周年
2年目の歩みミサ・ライブ配信

日時：7月13日（日）9時30分
場所：カテドラル大名町教会
司式：ヨゼフ・アベイヤ司教
この日は各小教区でも2年目の歩みに向けたミサが捧げられます。ライブ配信は上記QRコードからご覧ください。

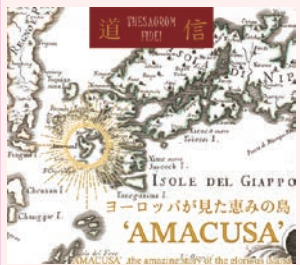


福岡教区主催 平和を祈る集い

日時：8月11日（月）（山の日）10時～16時
場所：カテドラル大名町教会 ※4面参照

主催

天草市/イタリア&天草新しい友情プロジェクト
ヨーロッパが見た恵みの島 'AMACUSA'



16～17世紀における文化時最先端の教育機関・コリナリヨから世界へ人々や独自の文化を送り出した天草。400年以上の時を超えて今お語り継がれるこの島を当時のヨーロッパの人々はどのように見たのか。

会期：2025年8月1日（金）～10月20日（月）
会場：天草キリシタン館
※詳細は右記QRコードからお確かめください。



平成29年7月九州北部豪雨から8年
令和2年7月豪雨から5年

2017年7月、福岡県と大分県に、そして2020年7月、熊本県を中心に九州や中部地方などで発生した集中豪雨により、今なお、悲しみ、苦しみ、不安のうちに生活を送られている方のために祈りましょう。キリストがともにいてくださることを、私たちが証しできますように。

第1回 福岡教区司祭評議会



司祭評議会について語る司教（中央）

6月4日、新しい評議員を迎えての25年度、第1回福岡教区司祭評議会が大名町教会講堂にて開かれた。会議に先立ち教区長アベイヤ司教より、教区の運営において司祭評議会が持つ役割について以下のように確認された。

①教区全体に奉仕するものとして、教区と地区と小教区の間を結び、それぞれが抱えている課題を共有し、その解決の糸口を求めあう場であること。②教区の5つの常設委員会活動に対して、その活動がより実りあるものになるように情報共有し、支え、励ます場であること。③司祭の生活と奉仕に関する課題について話し合う場であること。④教区において中心的な役割を果たす教区宣教師司牧評議会と連携し、現実の課題に対して福音と教義に照らし、教区、地区、小教区が一致して取り組むための絆・力となること。なお、本会の主な議事内容は次の通り。

【教区創立100周年について】（典礼部担当より）今回、感謝ミサを捧げる会場として収容人員、会場の空調環境などを考慮して、福岡国際センター規模の会場が適当ではないかと検討している。

（記念誌編集部担当より）8月末を締め切りとした小教区の紹介文と教会内外の数枚の写真の提供を依頼。なお、紹介内容の重複を避けるために、地区において紹介文の内容を確認をお願いします。

【集會祭儀司會者の養成について】集會祭儀の司會者養成講座を4回に分けて行う。遠方の受講者のために当日の資料、講座を収録したDVDの配布を準備している。第1回目を6月8日に実施した。なお、集會祭儀の司會者の任命式や実践については、適宜各地区、小教区で弾力的に行うようにする。これから体制を整えるので、協力をお願いしたい。

【青年の活動担当より】7月の聖年ローマ公式巡礼と11月の仁川（インチョン）教区の交流について計画している。司祭修道者の召命を育むためにも青年たちとのかわりが必要になるので、担当者だけでなく、教区全体で青年の育成について問題意識を共有し、協力してほしい。

時の話題

レオ14世について

先日、私の聖アウグスチノ会の兄弟、ロバート・ブレヴォスト枢機卿が新教皇レオ14世に選出されました。心から嬉しく、誇りに思い、そして希望に胸を膨らませています。

彼は人間性、経験、知識、そして徳を兼ね備えた素晴らしい人物です。教会と世界の歴史のこの局面に必要な資質です。本会の共同生活と霊性における経験は、教皇としての司牧活動にきつと影響を与えるでしょう。

過去45年の間、何度か彼にお会いしましたが、最初の時のことは忘れていました。しかし8年前、私がアメリカ・フィラデルフィア近くの小教区に主任司祭として務めていた時、本会の若い兄弟の一人を叙階するために来られたブレヴォスト司教様は、私が1980年にシカゴの神学校を訪問し、そこで初めてお会いしたことを思い出させてくれました。その時、私は日本の福音宣教についての講演をしました。30年経っていったにもかかわらず、彼はその時の講演で私が話したこと覚えて下さっていたのです。

私たちは共に人生を分かち合います。共に祈り、共に時間を分かち合い、共に食事をします。共に司牧し、共に友情を育みます。共に生きる事、それがアウグスチノ会のカリスマなのです。

2025年の今、私たちは分断された世界を生きています。教会の中にも、時に分断が起こります。傷つき、苦しみながらも、神へのこの深い憧れは変わりません。

聖アウグスティヌスの修道生活の会則の精神は「神において心も思いも一つに（する）」（会則1章二節）。これは、レオ14世教皇が教会に提供できる賜物だと私は思います。

聖アウグスチノ修道会
リウム・オドヘティ神父
笹丘教会主任



エムちゃんへ、あの日はあいにく雨だったね。まるで空が泣いているようだった。ぼくは守護の天使のそばに立って別れを惜しむみんなをながめていたんだ▼あれは、あんなにたくさんいたお友だちの姿がいつのまにかまばらになったころだった。後ろからかけられた声にふりかえると、元気をどこかに置いてきた君が母さんといっしょに立っていた。ときおりぼくを見つけてかけよってくる君は笑顔がいっぱいだったから、ほんの少しだけ心配してしまっただけ。それでも君の名前を書いた小さな袋を渡したら、消えそうな声で「ありがとう」といつ受けてとつくれた▼不思議に思ったかもしれないけれど、中には絆創膏が入っていたよね。あれは「もうぼくは貼ってあげられないから、今日からは自分で貼るんだよ」というメッセージだ。そう、これから君は君自身の力で新しい世界をめざさなんだ▼だが気がかりなことがある。君がめざす世界を、ぼくは君にふさわしいものにすることができたのだろうか。それがかなわなかったとしても、そのために精一杯の努力をしてぼくは生きてきたのだろうか。そしていつの日か、「この素晴らしい世界」と胸をはって言える未来を君に残すことができるのだろうか▼いまにも泣きそうな君を抱きあげたら、ようやく笑顔になってくれたね。だからぼくは安心してそっとおろすことができたよ。この手紙が君にとどくことはないのかもしれない。でも君はだいじょうぶ。あの日も見つけてくれてありがとう。卒園おめでとう！先生より。（Ｔ）

◆ 福岡教区創立 100 周年に向けて ◆



2027年7月16日、福岡教区は創立100周年を迎えます。これを受け、教区報では、各小教区や団体が100周年に向け取り組んでいること、心がけていることなどについて具体的な活動を紹介していきます。

「創立100周年」の情報は右記QRコードからご覧になれます。



巡礼指定教会の取り組み

4. 佐賀教会「出会いの場所になるように」

佐賀教会の聖堂（上）と外観（下）



を受けて実現しました。イタリアの工房に製作を依頼し、旧聖堂に設置したものを、このたび新しい聖堂にも取り付けました。

信仰の道程で佐賀教会を訪れてくださる方々の祈りが、聖堂の空間に広がり、染み込んでいきます。巡礼者である方々が、ここで神と出会い、信仰のきずなを深め、希望に燃え立つことができるように願い祈っています。

佐賀教会 牧山美好 神父

「旅に出ることは、人生の意味を探し求める人の特徴です」。教皇フランシスコはこう述べて、私たちを聖年の旅に招きました。

佐賀地区で唯一の巡礼指定教会です。お一人で、また複数人で訪れ、祈ってくださる方もあります。信仰の仲間との出会いはうれしく、有り難く感じます。

佐賀教会は今年、創立126年を迎えました。現在の聖堂は2022年7月に献堂されました。聖堂正面に聖ペトロ・聖パウロの像が置かれています。

聖堂内の窓にはステンドグラスが取り付けられており、イエスの生涯の出来事が描かれています。このステンドグラス製作と設置は、ミラノ外国宣教会のクラウド・ガッザル神父の発案によるもので、師はイタリアに帰国した際、郷里の教会を廻って宣教地の状況を熱心に語り、教会の充実と活動のために資金援助を願い、人々からの心温まる支援を受けて実現しました。

年に1度、西日本教区の司祭たちの親睦も兼ねた恒例の「西日本司祭ソ



開催教区のアベイヤ司教（左）から優勝トロフィーを授与される長崎大司教区の中村倫明大司教（右）

フ・アベイヤ司教の開会宣言

悔し涙を流した。開催地の教区長であるヨゼフ・アベイヤ司教の開会宣言

西日本司祭ソフボール大会
合言葉は「来年こそは！」

フットボール大会」が5月13日に開催された。今年は福岡教区が担当となり、試合会場は旧神学院に、大阪高松大司教区・広島教区・長崎大司教区・大分教区・鹿児島教区から精鋭の司祭たちが集結した。文字通りの五月晴れで絶好の野球日和の下、司祭たちは聖書をバットに持ち替えて爽やかな汗や

の後、トーナメント制のための抽選が行われ、我が福岡教区は第一試合、強豪長崎大司教区の若手司祭チームとの対戦と相成った。長崎大司教区は参加司祭が多かったため、50歳で上下を区切り、ヤングチームとアダルトチームの2チームでの参加となっていた。

試合は福岡教区にホームランも飛び出し、強豪相手に良いムードで始まったが、序々に相手のペースとなり、気が付けば16対4の大差で2025年の春は早々に終わった。

次の試合は昨年の準優勝チーム大阪高松大司教区を大分教区が10対7で下し大健闘。3試合目はシードの広島教区と長崎アダルトチームとの対戦であったが、広島教区は国際色豊かで、野球は初めて、ルールもよく分からないという司祭もいた。しかし長崎アダルトチームは容赦なく勝負し、大差をもって決勝に駒を進めた。

決勝は、トーナメント抽選の時から嫌な予感的中、長崎の2チームでの対戦となった。このため急遽長崎教区以外が「連合チーム」を組み、戦いを挑むこととなった。それでも7対5で競り負け、優勝トロフィーは再び長崎大司教区に手渡された。

夜には大名町教会1階講堂で懇親会が催された。そこには敗戦教区司教たちの「あなたたちは教会のことではなく、こればかりやっているんじゃないでしょうか」「大人げないもほどがある」などユーモアに満ちた負け惜しみも飛び交う、始終賑やかで微笑ましい兄弟たちの輪ができていた。

5月20日、大名町教会にて、今年度第1回目の全司祭集會が行われた。午前の部では、「第二バチカン公会議の60周年に当たって」というテーマで、櫻井尚明神父（手取・帯山教会主任）に話をして頂いた。櫻井神父は「公会議が終わった時、私はまだ5歳でした」と前置きされて、次のよ



講話に熱心に聴き入る司祭たち

③公会議後の日本の教会ー当時日本では、公会議のことがあまり知られていなかった。聖ヨハネ・パウロ2世教皇の来日後、1987年に、司教、司祭、修道者、信徒による福音宣教推進全国会議が開かれた。前教皇フランシスコも公会議の精神を推し進めたと考えられる。そして、私

うに述べた。①公会議の目的ーまず教会が一致して、平和のために努力すること。教会が、現代世界に対して、諸問題解決のために貢献するように、すべての信者の力を結集すること。②公会議の結果ー典礼の変化。典礼は各国語を用いて、すべての信者がつくり上げるものである。教会の捉え方の変化。位階制中心ではなく、神の民への奉仕が中心である。



真剣に耳を傾け受講する、集會祭儀の司会者として推薦を受けた多くの信徒たち

「司祭不在のときの主日の集會祭儀」の「司会者」養成講座 第1回

たちも共に教会をつくり上げ、今もその歩みが続いている。午後の部では、まずアベイヤ司教の講話が行われた。司祭団に対して、各小教区で優先課題に取り組み、福音宣教についても話し合っており、という話。そして今年度のテーマである「未来に開かれた教会」についての話が。次に青年担当の桑原

鳥栖・小郡教会主任 岩下和樹

をテーマに講座が行われた。まずは、信仰の担い手として、旧約から新約に至る救いの歴史、キリスト教の教え、教会について、信徒の使命など、幅広くキリスト教の要理の復習が行われた。その後、教会共同体を生かす「奉仕者」としての姿勢、キリスト者の養成について講話があった。また、「奉仕者として、目の前の人を大切に、その人に耳を傾け、その人の成長を支えていくため、謙虚さを忘れず、人を生かす者にならなければならない」との思いが参加者に語られていた。

4月6日、10年ぶりに各教会の広報担当者の集いを開催し、教区内の62教会（内巡回7教会）のうち、会場25人、Zoom5人が参加した。開催に先立ち、広報担当者（担当がいらない所は主任司祭や、それに代わる役職の方）には事前アンケートの協力を願い、各教会の広報活動の現状や、教区報を含む教区からのお知らせの周知方法、教区広報への気づきや提案などをお願いしていた。

集いでは、各々の現状と広報活動への熱い想いから、発表にほとんどの時間が費やされたが、自分の教会との違いにそれぞれが刺激を受けていた。各教会には個別の状況があり一様に同じ活動することは難しい。今回の集いのテーマは、各教会の現状を知りつなぐことであり、「良い分かち合いのときであった」という感想が多く聞かれた。

現在、教区には5つの常設委員会（典礼・宣教養成・社会福音化・青少年・広報）があるが、ヨゼフ・アベイヤ司教の「教区内の各地区（福岡・筑後・北九州・佐賀・熊本）の5地区）にもこの5つの常設委員会（難しい場合はそれに代わる担当者）を置き、教区・地区、そして地区内のそれぞれの教会へと情報が流れ、連携して福音宣教活動ができるように」との呼びかけにより、その趣旨が各地区宣教司牧評議会の運営に生かされている。

イエスは小さくされた人々のもとにわざわざ出向き耳を傾けた。大きな声だけでなく、小さな声も聴き逃さないよう各地区・各教会と密につながり、イエスを宣べ伝える広報活動を行っていききたい。



Zoom参加者もあった集いの様子

サンパウロ 福岡宣教センター

営業時間：
10:00～18:00
定休日：日曜日・祝日

〒810-0042 福岡市中央区赤坂1-14-26
tel. 092-721-2032 / fax. 092-739-3930
E-mail: fukuoka@sanpaolo.or.jp

不動産全般/売買・賃貸・管理
なんでもお問い合わせください

(株)ジャパン・スマイルか

代表取締役 マルガリタ・マリア 吉田由利子
〒810-0044 福岡市中央区六本松4丁目9番4号
TEL 092-761-8800
http://www.iruka-japan.com/

総合建築業

- 一般住宅（新築・改築工事）
- 鉄骨工事
- RC工事

建築の事なら何でもお気軽にご相談ください

有限会社 **森山工務店**

ヨゼフ 森山新太郎

福岡市早良区四箇1丁目15番28号
☎ (092) 811-7265

カトリックの教会葬
共に祈り・共に送る

株式会社 **みこころ舎**

問合せ
050-3032-1333

「何も持たずイエス様の愛だけに信頼して」 聖心のウルスラ宣教女修道会 終生誓願式

終生誓願を立てる Sr. 水田 (左) (右はアベイヤ司教)



6月14日、聖心のウルスラ宣教女修道会の聖堂で、総勢70人の参列者に囲まれ終生誓願式が執り行われた。神様と歩む道は人それぞれ違う。神様と私の繋がりは、生まれてすぐ大楠教会で洗礼を受け、その後、老司教会に移動してから始まった。

ある年の復活祭に友人が洗礼を受けるため一緒に準備をしていた。聖木曜日のミサ中、私の心の奥に燃えるようなパワーを感じ、聖霊を知った。そして聖金曜日の夜、一人で教会の聖堂で祈っていると十字架の周りが黄色に光りイエス様から「私の父がよいと言っているのだから」という声が聴こえ右手を差し出された。私は呼ばれていると直感し、召命というものを知った。ここからイエス様に捉えられ紆余曲折がありながらも、今日ここに終生誓願という大きな大きな神様の愛に招かれ、ヨゼフ・アベイヤ司教様、司教、司祭方、長上、姉妹、家族、友人たちの前で、神様に私のすべてを捧げる終生の誓願を宣立した。

私は誓願式の数日前から一つのことを祈っていた。「式に参列される方々にイエス様の素晴らしさ、イエス様の姿を、私を通して現してください」と。その願いは聞き届けられた。誓願式にいらした方々から私の顔が輝いていると口々に言われたのを思い巡らすと、イエス様は私の顔にご自分の輝きを現されたのだと思うからだ。

司教様のお話の中で「誓願宣立によって、これからのあなたの人生は決定的に方向づけられる」と聞いた時、イエス様の心を生きていく生き方が始まったと確信した。式から数日経った今、私の中の静かなところで、何も奪われない安心感を感じている。神様のみこころにかなって神様が私を受け入れてくださったということだけで感謝で胸がいっぱいで、心が満たされ幸せになった。この幸せを一人でも多くの人に感じて欲しいと願っている。

これからは何も持たずイエス様の愛だけに信頼し、イエス様に従っていきたい。そしてイエス様が遣わされるところにいつも「はい」と応えていきたい。

私の想いを尊重し支えてくれた両親と家族に心から感謝している。

シスター カテリーナ マリア 水田由美子

シスターと一緒に！

3月20日に聖心のウルスラ宣教女修道会で行われた「シスターと一緒にイエスと出会ってみませんか！ Part5」。「希望」をキーワードに、分かち合いを通して考えを深めていく一日でした。

最も印象深かったのは、霊的会話に取り組んだことです。霊的会話とは、会話の中にいる自分自身と相手、聖霊の働きのもとにあることを意識する会話の方法で、ファシリテーターの進行によって発言と沈黙を繰り返しながら、「私」「あなた」「私たち」の中で聖霊はどのように働いているかに思いを巡らせます。始める前は、難しそうだしできるかなと不安もありましたが、その場を共有しているシスター方や参加者の皆さんがどんな内容でもじっくりと聞いてくださり、また私自身も相手の話に時間をかけて向き合うことで、自分の気持ちやありようについて考えることができました。信頼関係のもと成り立つ会話の方法だなと感じ、その場を共有させていただいて感謝の気持ちでいっぱいでした。

他にも複数のワークや分かち合いをし、昼ごはんやおやつもいただき、多くの方とお話してとても楽しかったです。

老司教会 山口紬



霊的会話を学び、交流を楽しんだ参加者たち

5月18日に「福岡教区青年センター・カタラント1周年記念ミサ&パーティー」を大名町教会にて開催した。



笑顔いっぱいの参加者たち

ミサ後は講堂に移動し祝賀パーティーを行った。参加者はそれぞれ1品ずつ手作りや持ち寄りの料理を準備し、皆で分かちあった。パーティーには25人程が集い、食事をしながら語り合った。これまでの活動の話や、他愛もない話で各テーブルに花を咲かせた。パーティーは終始笑い声と笑顔があふれる時間となり、カタラントが無事に1周年を迎えられたことを皆で祝った。

準備段階ではどのような集いになるか分からず、少し不安な部分もあったが、当日は皆が楽しそうに過ごしている様子を見て、開催できたことを本当に嬉しく思った。



派遣ミサ後「希望」を胸に記念の集合写真

日本カトリック女性団体連盟(通称日力連)は昨年50周年を迎え、新たな一歩としての総会を5月27・28日、大名町教会で開催した。テーマは「シノドスの教会になるた

めに、私たち女性にできること...家庭・家族」。参加は信徒155人と山野内倫明(さいたま教区)顧問司教、ヨゼフ・アベイヤ司教(福岡教区)、森山信三司教(大分教区)。

昨今の社会状況の変化に不安が募る日力連は、まるで嵐の湖をいく舟(マルコ4・37)。

しかし昨年の理事会で今後の方向性について考え、今までどおりは難しくとも、主の呼びかけを探りながら「今私たちにできること」を行うことが重要という認識のもと、主を頼りとし嵐の海に漕ぎ出した。これからは、様々な組織や活動グループと連携し、日力連の一致ではなく、愛にお

ける一致を目指そうという方向性が見えてきた。総会後は、教会講堂で恒例の懇親会。司祭方も加わったの出し物と美味しい福岡の食で、喜びと感謝に満ちた。

二日目はアベイヤ司教の講演を聴き、分かち合いを行った。「家族・家庭」は近年大きく変容し、キリスト者としての関わり方がわかりにくくなった。アベイヤ司教は、家族・家庭も、社会、文化、価値観とともに変化する。若い人に「家族はかくあるべし」と押し付けるのではなく、問題だと感じても、「彼らが神と出会うには」に視点を置いて助け合うことが大切だと語った。

聖ピオの聖遺物が
高宮教会へ

聖ピオの血の付いた下着



イタリア・ピエトレルチーナ出身で聖痕を受けた聖人として有名なカプチン・フランシスコ修道会の聖ピオ(1887~1968年)は、人々の救いのためにその生涯を捧げた司祭である。ローマ教皇ヨハネ・パウロ2世によって1999年に列福され、2002年に列聖された。高宮教会では2018年にイタリア巡礼を実施し、「聖パードレ・ピオ聖痕出現100年と帰天50年記念」に参加した。そして、聖ピオ生誕の地「めぐみのマリア大聖堂」で聖ピオの聖遺物を拝見することができた。その際、同行司祭のデソーザ・ジョンソン神父(大楠教会主任、カプチン・フランシスコ修道会が会員なので、高宮教会に聖遺物をお持ちいただくことが可能と知った。高宮教会では「聖ピオの祈り会」をつくっ

重要文化財今村天主堂の 耐震補強工事が始まる

6月7日午前10時、今村カトリック教会耐震補強工事安全祈願起工式が調査工事後の聖堂内で厳かに挙行了されました。起工式は福岡教区長ヨゼフ・アベイヤ司教様の司式に田中重治神父様(大名町教会主任・一般社団法人今村天主堂保存会代表理事)と浦川務神父様(今村・本郷教会主任、同理事)も加わり、行政関係者や設計監理者及び施工業者、信徒たちが参列する中、聖歌隊による入祭の歌「うるわしい神の家」(典礼聖歌22番)で始まりました。この事業は、2018年の耐震診断の結果(大きな地震で倒壊の恐れ)を受けて教区本部や信徒との意見集約の後、文化庁をはじめ行政機関等の指導・助言を得ながら準備を進めてきました。

司教様は式の中で「教会は人が集う場所であり、世界には木の下(木陰)での集いから、建設に500年をかけた教会や今なお建設が続いているサグラダ・ファミリアもあります。およそ10年を要するこの補強工事也希望をもって進めていきましょう」と関係者を励まされました。

完了予定は2033年、主キリストの受難と死と復活によってなされた、あがないの二千周年が祝われる年(2025年の通常聖年公布の大勅書)。これからも希望とともに信仰のみのちは続きます。

今村教会信徒会長 久次桂二



工事の無事を願い灌水を行う司教(右)と田中神父(左)

BOOK 読み専科

てその日が来ることを祈り、バザー活動など努力を重ねた結果、実現の運びとなった。※9月27日から10月2日まで高宮教会で聖ピオの聖遺物を展示いたします。



☆「信仰の世界」へのエクソダス
吉池好高(東京教区司祭)(著)

旧約から新約時代まで続く聖書の「信仰の世界」を分かりやすく解説。カトリック教会が信じている使徒信条を見つめ、それが聖書とどのような関係があるのか、キリスト教とは何か。そして旧約聖書の創世記から始めて順に進めていきながら、私たちにどう「神」とはどのような方なのか、現代に生きる私たちに至るまでの神との深い結び付きを探っていきます。
オリエンズ宗教研究所発行
税込価格2200円

ド・ロさま
ちゃん

株式会社サンフリード ド・ロさま麺工場

長崎市西出津町2528-1
TEL(0959)23-0610
FAX(0959)23-0611

Nagasaki Spaghetti

長崎スパゲッティ
Since 1883

右記URLから
ご注文できます

社会医療法人 雪の聖母会

聖マリア病院

〒830-8543 福岡県久留米市津福本町422
TEL.0942(35)3322 FAX.0942(34)3115

聖マリアヘルスケアセンター

〒830-0047 福岡県久留米市津福本町448番5
TEL.0942(35)5522 FAX.0942(34)3306

信仰や理念を共有できる医師、看護師の皆さん
と一緒に働いてみませんか

URL: <http://www.st-mary-med.or.jp/>

年間目標

互いに支え合う
交わりの教会となるラウダート・シ 10周年 シンポジウム開催
主催：日本カトリック司教協議会 ラウダート・シ部門

『ラウダート・シ』公布10年、そして聖年が、一年を通して行動への扉を開いています。カトリックの信者として、被造界に新たな希望をもたらしましょう。

「すべてのいのちを守るための月間」
(9月1日～10月4日)には、エコロジカルな霊性をテーマとしたシンポジウムと、『ラウダート・シ』10周年を祝うミサが行われます。

〔日 時〕10月4日(土) 13時～16時 (予定)
〔場 所〕旧カトリック神学院



ラウダート・シ部門HP

日本カトリック平和旬間賛同企画
福岡教区主催 2025 平和を祈る集い

開催日：8月11日(月)(山の日)

場 所：カテドラル大名町教会

〔内容〕

午前：第1部 講演会 講師：中村国利氏

ノーベル平和賞受賞・日本原水爆被害者団体協議会(日本被団協)

午後：第2部 パネルディスカッション

長崎・高校生平和大使と福岡教区青年による

第3部 インターナショナルミサ(ライブ配信)

主司式 ヨゼフ・アベイヤ司教

※詳細は教区HPまたは上記QRコードからご覧ください。



絵・俳句・川柳・短歌の募集 ご案内

「平和」をテーマに上記を募集し、作品は当日会場に掲示します。(締め切り 2025年7月31日)

〔応募先〕

①郵送 〒810-0028 福岡市中央区浄水通6-28
教区本部事務局「平和を祈る集い 作品受付窓口」

②Eメール cdf-kouhou@nifty.com

送信時の件名「平和を祈る集い 作品応募」

北九州地区宣教司牧評議会主催 平和の集い
第2回聖書講座「平和について」

〔日 時〕8月9日(土) 10時～11時30分

〔場 所〕カトリック小倉教会

〔内 容〕聖書を通して平和について考えます

〔問合せ先〕☎0930-22-0805 行橋教会

久留米教会ピース9企画 筑後地区宣教司牧評議会共催
故教皇フランシスコ回勅「私達を愛された」
～みこころから溢れ出る平和活動～

回勅「Dilexit Nos(わたしたちを愛された)」には、私たちがこの世界の不正義の社会構造を変えていくようにというイエスのみこころを呼びかけるメッセージがあります。回勅をテキストにしながら、みこころから溢れ出る愛を生きてゆく道を分かち合います。

〔日 時〕8月10日(日) 9時ミサ後 11時から

〔場 所〕カトリック久留米教会聖堂

〔講 師〕中井 淳神父(イエズス会)

〔問合せ先〕☎0942-32-8011 久留米教会

福岡教区和田墓地委員会より

和田墓地の一般清掃を以下の通り行います。皆さまのご協力をよろしくお願いいたします。

〔日 時〕7月27日(日) 9時～

(※雨天時8月3日予備日)

〔ミ サ〕(※清掃後) 11時～

〔場 所〕福岡教区和田墓地(福岡市南区和田4-15)

〔問合せ先〕☎080・2771・6544 豊嶋



ハンドブック2025 ―お詫びと訂正―

P.32 ×11月30日 宣教地召命促進の日(献金)

P.33 ○12月 7日 宣教地召命促進の日(献金)

― 召命を共に祈る会 ―

福岡地区 7月15日(火) 13時30分～ 大名町教会
〔問合せ先〕☎092・921・4532 山口北九州地区 7月12日(土) 14時～ 小倉教会
〔問合せ先〕☎0949・24・9905 藤井熊本地区 7月17日(木) 9時30分～ 健軍教会
〔問合せ先〕☎096・369・8896 松上

― 各種団体の定例会 ―

詳細につきましては、福岡教区ホームページ「教区報7月号」、または
右記QRコードからご確認ください。



福岡教区広報室アドレス
https://fukuoka.catholic.jp
E-mail: cdf-kouhou@nifty.com



案 内 板

会合と催し

7月のこよみ

福岡教区創立 100 周年に向けて
かつどう・できごと掲示板

「シノドス的」な教会の歩みを推し進めましょう！

2027年7月16日まで

あと 24 ヶ月

スタンプを押した
小倉教会のページ

100周年まで、早くもあと2年となりました。皆さんが数か所でも巡礼が出来るよう祈っています。
スタンプノートも忘れずに。
―8つの巡礼指定教会―
その4. カトリック小倉教会
福者ディエゴ加賀山隼人巡礼地。
保護聖人は「被昇天の聖母」です。

真命山諸宗教対話センター - 祈りの集い -

年間テーマ：希望の巡礼者

日 時：7月10日(木) 10時～15時

内 容：「希望」と祈り

希望は祈りによって養われる

次 回：9月11日(木) ※8月は休み

内 容：「希望」と平和 主が与えてくださる平和における希望

※2025年から、指導はチームで行われます。

問合わせ先：真命山諸宗教対話センター

☎0968・85・3100 FAX 0968・85・3186

熊本県玉名郡和水町蜻蛉浦1391-7

E-mail shinmeizan@gmail.com

☆個人またはグループでの黙想会、研修会も歓迎いたします(要予約)

【7月】

1日(火) 福者ベトロ岐部司祭と187殉教者

2日(水) 東京神学校・奉獻生活についての研修会(東京)

3日(木) 聖トマス使徒

5日(土) 聖公会の九州教区主教按手式参加

6日(日) 年間第14主日 湯川教会司牧訪問

13日(日) 年間第15主日

教区創立100周年2年目の歩みミサ(大名町教会)

教区創立100周年委員会

福岡教区創立記念日(1927年)

16日(水) 若松天使園竣工式

19日(土) 11月の仁川教区青年大会の参加者の集い(司教館)

年間第16主日 水巻教会司牧訪問

20日(日) 第2回 司祭評議会

22日(火) 聖ヤコブ使徒

25日(金) 聖マリアの両親 聖ヨアキムと聖アンナ記念ミサ

26日(土) (高宮教会)

27日(日) 年間第17主日 行橋教会司牧訪問

29日(火) 聖マルタ、聖マリア、聖ラザロ

31日(木) 聖イグナチオ(ロヨラ)司祭

【8月】

3日(日) 年間第18主日 戸畑教会司牧訪問

5日(火) 広島司教区2025平和行事(～6日 広島)

■ゴシックは司教日程

―お詫びと訂正― 教区報6月号2面 福岡教区現勢報告
大牟田教会と小郡教会のデータが入れ替わって掲載されておりました。訂正してお詫び申し上げます。

※福岡教区で奉仕された司祭の帰天日は右記
QRコード、または教区ホームページのカ
レンダーでご確認ください。

찬미예수님! 主の平和!
キム・ドウカン(金洞完 神父 仁川教区司祭)

올해 2025년부터 후쿠오카 교구로 파견된 인천교구 소속 김동완 니콜라오 신부입니다. 우선 선교를 할 수 있는 기회를 주신 하느님께 진심으로 감사의 기도를 올립니다. 일본에 온지 3개월 조금 넘는 데 일본분들이 너무 친절하시고, 또 일본어 공부도 어렵지만 재밌기에 행복한 하루하루 보내는 중입니다.

全文と
日本語訳は
右記から→

그런데 많은 분들로부터 왜 선교를 지원했냐고 종종 질문을 받은 적이 있습니다. 사실 사제 성소를 가질 때, “울지마 톤즈”라는 다큐멘터리 영화 속에 나오시는 선교 사제의 모습을 보며 선교의 불씨가 있었습니다.

하지만 9년이라는 신학교 시절을 보내고 보좌신부로 살면서 점점 이런 생각을 갖게 되었습니다. “선교는 나같이 부족한 사람이 하는 건 아닌 거 같아.” 그러다 보니 선교는 제 스스로가 아니라 가야 하는 상황이 생기면 그때 가는 것이라고 생각하게 되었습니다.

그런데 작년 2024년 인천교구 사제연수로 후쿠오카교구로 온 적이 있었는데, 미사가 끝나고 신자분들이 일본교회의 상황을 얘기 하시며 한국교회는 사제가 많아서 다행이고, 일본교회를 위해 기도해달라는 얘기를 듣게 되었습니다. 그때 갑자기 ‘함께하고 싶다’라는 마음이 타올랐습니다. 그래서 기회가 된다면 일본이 아니어도 선교를 가고 싶다고 주교님께 말씀드렸는데 바로 선교를 할 수 있는 기회를 얻었습니다.

사실 ‘선교’가 정확히 무엇인지 아직도 잘 모르겠지만, 준비하는 기간동안 확실히 마음에 새긴 것은 어떤 결과물을 만드는 게 아니라 함께하는 것입니다. 사실 아직 신부가 된 지 3년 차이기에 부족함이 많지만, 주님 안에서 제가 할 수 있는 최선을 다하고자 합니다. 주님의 은총이 여러분과 함께하길 기도합니다.



信徒を祝福するキム神父

福岡教区セクハラ対応窓口

セクハラを受けたら、見かけたら、ご相談ください。ひとりで悩まず、早めに相談

セクシュアル・ハラスメント相談窓口

電話 080-2694-4182

受付時間 月～金(祝日を除く)

10:00～12:00 13:00～16:00

編集後記

(4月号より続く) 教区Webサイトへ鐘の音についてお尋ねになった質問者さま。幼少期の環境から宗教に良いイメージをお持ちでなかったにもかかわらず、鐘の音の記憶に導かれ、故郷のカトリック教会に足を踏み入れた時の想いを届けてくださいました。

「宗教、その取り組み方はさまざまある」ということは理

解しているつもりでした。が、改めてカトリック教会の聖堂を訪れ、人の信仰の形と、その重なる年月を感じました。その時、冷静にその形を受け止められている自分がいたのに驚いたのと、疑問に思っていた鐘の音の違いについて尋ねてみようという気持ちになりました。

長々と、自分のことを語って申し訳ありません。ただ、1年と短い間でしたが、毎日の生活の中で身近に鳴っていたカトリック教会の鐘の音は、きつと、ずっと自分の中に記憶として残っていくと思います」次号完結(18へ)(W)

教区報8月号について

9月号は休刊となりますので、8・9月の集いの掲載申込みについては7月15日までにご連絡ください。